

会 議 録 (要旨)

会 議 名	第22回瑞穂町行政評価委員会
開 催 日 時	令和4年7月19日(火) 午後2時58から午後4時まで
開 催 場 所	瑞穂町役場庁舎 2階 2-2会議室
出 席 者	出席者:中村委員長、木村副委員長、池田委員、石川(任)委員、根岸委員、 関谷委員 事務局:宮坂企画政策課長、渡辺企画推進係長、企画推進係稲村
配 布 資 料	【事前配布資料】 事前資料1 第5次長期総合計画(施策評価)行政評価委員による外部評価 事前資料2 瑞穂町行政評価について 事前資料3-1 施策分野評価シート① 事前資料3-2 施策分野評価シート② 【当日配付資料】 当日資料4 フロー図 当日資料5 外部評価案
議 題	1 開 会 2 議 題 令和3年度施策分野別の外部評価について 3 その他
傍 聴 者	なし
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載。同一内容は一つにまとめた。)	1 開会 ・中村委員長から会議公開についての説明が行われ、会議が進められた。 ・宮坂企画政策課長より挨拶の後、資料確認が行われた。 2 議題 令和3年度施策分野別の外部評価について ※渡辺企画推進係長から新しい外部評価に関して、令和3年度の施策分野別の評価シート及び事務事業評価シートの説明が行われた。 ○意見及び質問並びに説明員の回答 (中村委員長) 従来使用していた個別のシートは使用せずに、施策分野のシートを評価することになる。今までは、個別の事務事業のシートを見ていたので、全体の様子がさっぱりわからなかった。しかし、今回は全体の計画の構造に基づいた評価シートになっている。従来よりは良いものになったのではと個人的には思っている。 (宮坂企画政策課長) 今までは2つの大きな問題があった。1つ目が、皆さんに見ていただいていた140ある行政評価シートと長期総合計画の連携がとれていないことだった。2つ目は先ほどお話ししたが、長期総合計画を策定する会議上で上がった、

「なぜ長期総合計画は5年に1度しか進ちよく状況の振り返りを行わないのか」という声に示されたとおり、計画の進ちよく確認の問題であった。5年の計画を作成する際に1度に振り返りをしてしたが、毎年外部の目を入れたり、振り返りをしなければいけないのではというお話だった。

長期総合計画の策定の際には、毎年行政評価委員の皆さんに事務事業は評価してもらっているという話をしていたが、この評価方法を長期総合計画と連携して行えないのだろうかと考え始めたところである。

2000を超えるだろうといわれている事業を、瑞穂町では140にグルーピングしているが、これをさらに施策分野で35のグルーピングにしていこうという話である。ピラミッド構造の一つ上の階層を皆様に評価していただくことで、もう少し違うものが見えてくるのではないかと、また、すべての分野を評価していただくことで、今まで目に触れなかった分野も評価していただけることがメリットではないかとも考える。

本日は皆様にご意見をいただければと思う。

(池田委員)

35分野を5年間で行うとのことだが、1年目で取り上げた分野を5年目に行うことができなくなる。分野選定の妥当性についてはどう考えているのか。

(渡辺企画推進係長)

池田委員がおっしゃるとおり、我々もその議論をさせていただいていた。35施策分野を全部外部評価するのは物理的には難しいが、事務事業評価を何とか長期総合計画と連携させたいという思いが強かった。今回の令和3年度の外部評価を行った後、あと4年残っている。その妥当性も含め、今年度評価していただいた後に、委員の皆様の目からみて今後4年間の方向を示していただければと考えている。皆様からの評価については、長期総合計画の後期基本計画策定の際に貴重なご意見として反映させていきたいと考えている。

(宮坂企画政策課長)

35のシートについては、毎年すべて完成させる予定である。その中で、皆様に見ていただくのが、7シートということになるが、例えば、5年目に前後を振り返るタイミングを設けることも可能だと思っている。まず、5年を通して1度、全ての分野を皆様に評価いただくことができないだろうか。まだ試行段階であるが、現段階では1年に7分野ずつというのが私たちの希望である。

(石川委員)

大幅に表現方法が変わった理由が確認できた。追いついていくのは大変だが、慣れればわかりやすいとのことなので、やってみたいと思う。

(根岸委員)

シートについてご説明いただき感謝する。企画政策課の皆様は、行政の手続きをこうして見える化するのにかなり苦労されていると思う。私も今回、現状のものを変えて施策を評価するという事は理解した。全部できればよい

が、まず7施策分野を評価し、その上で施策分野については、再度行うのか、またご検討いただいて、全体の35施策を今後どのようにフォローしていくのかというところをご検討いただくのであれば、今回まず7つを評価するのはありではないかと思う。

あとは、もう1点、意見がある。可能であれば修正願いたい、シートの予算、決算の数字が【千円】と【円】で異なっている。千円で統一してあれば外部評価の際見やすいので統一していただきたい。

(中村委員長)

私からも質問がある。行政改革推進本部会議に関してだが、この会議は毎月開催しているのか。また、重点項目が変更になったりすることはあるのか。

(渡辺企画推進係長)

1点目については、行政改革推進分科会の後に開催しているので、少なくとも年に1回は必ず開催している。評価シートに関して、今年度は2回目が予定されている。

2点目については、今までは変わったことはない。長期総合計画自体が議会の議決を経ているものなので、変更の場合は議決が必要になる。あり得ると思うが、近年はそのような事例はない。

(宮坂企画政策課長)

新しい事業が発生し、事務事業評価シートが作成され、施策に追加があることは考えられる。世の中の情勢が変わり新しいことが起こる場合があるのは町長も想定しているが、議決も必要であり、10年の計画期間が決まっている。長期総合計画はそれも包含できるような作りになっているため、そこは臨機応変に対応できると考えている。

(中村委員長)

他の質問との関連で質問させていただいた。

(木村副委員長)

長く行政評価のシートを見ていたので、シンプルになったという印象である。また、今までは小さいところから大きいところを見ていたので、逆ピラミッドで、行政評価シートの細かいところに捉われる意見しか出せないことが多々あったが、今回は大きなところから中を見ていくという形なので、わかりやすいと思う。今回のような形の方が行政改革につながるので、私も新しい様式で取り組んでいきたい。

1年間に7施策を評価することについて質問だが、一つの基本目標を1から順に評価するのか、それとも各基本目標から一つずつ評価するのか、または例えば基本目標3の3から行うであるとか、その部分をお聞きしたい。

(渡辺企画推進係長)

評価する施策分野についてのお話だが、企画政策課内でも議論があり、基本目標の最初から順に行くのか、後ろから行くのか、それぞれからいくの

かなど様々な話があった。さきほどの池田委員の質問と重なる部分もあるが、町の重要施策について、我々企画政策課は主要施策として把握しているので、それに付随したものを早めにとという話もあった。昨年までの外部評価は、どれを評価していただくか、アンケートを取っていたが、そのように来年令和4年度のシートを見ると我々の意見・皆様の意見を踏まえてという方法もありとは考えている。お手元の資料には、仮という形で割り振りさせていただいたが、令和3年度については、この事業で行かせていただきたいというのが我々の希望である。

今回、下水道の事業が含まれているが、青梅境の長岡に、大きな費用をかける事業がある。その部分を皆様に聞いていただきたいという思いがあり、このような事業を選定させていただいた。

(宮坂企画政策課長)

この4年間でも事業の進行には山がある。そこを見て我々も施策分野を提案させていただき、皆様もこの分野を見てみたいということがあるかもしれない。その部分をキャッチボールしながら、この後の施策は決めていきたい。

(中村委員長)

少しポイントがずれるが、私からお話ししたいことがある。長期総合計画には重視すべき視点があるが、これから10年間の瑞穂町を考えた場合に決定的な問題と私が考えているのが、瑞穂町の民意を象徴する投票率の低さである。これは東京都でも最下位であったり、全国でもかなり低いと思う。長期総合計画の数字にすべて関わっていることであると思う。投票率は民意であると思うが、その民意が低い。つまり、税金を支払っているのに、民意が反映されず、税金が支払いっぱなしになっている。このような状況だと後々に禍根を残すことになるのではないか。

先ほど質問したのは、長期総合計画の中でも重点施策を含めて、やはり瑞穂町の民意が象徴的に表れるのが投票率だと思ったからである。それを10年かけて、東京都で1番になるくらいの目標を立てて、文化を変えるくらいの革命的なムーブメントがないと変わらないと思う。そういうところに視点を当てた総合計画になってほしいし、総合計画の中に含まれてほしいと思う。

私は瑞穂町に来て40年になるが、民意をあらわす投票率がこんなに低いということずっと疑問に思ってきた。どうして改革しようとしないのかと思っている。選挙については、選挙管理委員会があるが、今まで何をしてきたのかという話にもなってしまう。私は、総合計画の中で瑞穂町のパワーを力強くあらわしていく象徴的な指標は投票率であると考えている。そのムーブメントをどう起こしていくかということを中心施策というか、新しい視点ということで表現していくことは決して今からでも遅くはないと思う。行政の方は大変だと思うが、自分なりに分析し、仕方ないと思う部分もある。新幹線の駅員に「瑞穂町ってどこにあるの?」と聞かれたこともある。先ほどの資料に瑞穂町への定住意向に関する指標もあったが、そういった視点に関するものが全くないので指摘しておきたい。

1例でお話ししたいのだが、瑞穂町には行政参加のシステムは多くあり、色々な委員会がある。その中に私が入っている財産管理委員会というものがある。これは財産区の管理制度に関するもので、財政課が担当になっている。任期は1期4年で、町内会の役員をやっている方が順々に入るような慣例になっている。そのため、選挙で選ばれる訳ではない。特別会計の予算があり、かなりの規模の予算がある。しかし、財産を管理する決定権は、財産管理委員会ではなく、財政課が決定権を持っている。仕事は何をしているかといえば、石畑では、お墓のまわりの雑草取り、枝払い、石畑スポーツ広場のまわりの雑草取りなどである。他の地域の状況は知らないが、他の地域との共同での作業や、協働での財産の運用などを協議したことは一度もない。

同じことは、選挙管理委員会でも言えるが、ティッシュ配りでは投票率は上がらない。重点施策で委員会のスキームを見直していくということも必要であると思う。過去10年も同じことをしているのだから。納税者から見ると、財産がどう使われているか知る必要があるが、おそらく皆知らないだろう。各委員会について誰も評価していない。私は今日の委員会の中で、そういった視点で意見を申し上げたい。

あくまで意見であるので、回答は必要ない。

3 その他

事務局より次回の日程について

(渡辺企画推進係長)

次回の日程について、皆様に事前に調整の連絡を行い、検討させていただいた結果、**8月8日(月)午前10時から**開催させていただけたらと思う。ただし、新型コロナウイルスの状況次第では、町の判断によってしまうが、書面審査などになってしまうことも予想される。その場合は追ってお知らせする。現状では対面で考えている。その前になるが、8月1日に予定として行政改革推進本部会議を開催する予定でいる。開催通知は後日正式なものを送付させていただく。

閉会 午後4時